ポルトガルのワイン輸出額、2026年上半期に6.2%減

2リットル未満の容器入りワインの販売低迷が減少を招き、ポルトガルの主要輸出先上位10カ国のうち8カ国で購入額が減少

2026年11月13日（金）



2026年上半期、ポルトガルのワイン輸出額は減少した。袋入りワインやスパークリングワインの伸びを、容器入りワインの販売低迷が上回ったほか、金額ベースで上位10市場のうち8カ国で購入額が減った。

スペインのワイン産業連合組織（OIVE）がポルトガルの通関データを基にまとめた分析によると、ポルトガルの2026年1〜6月のワイン輸出額は4億2,174万ユーロで、2025年の同じ期間に比べて6.2%減少した。輸出量は8.3%減の1億5,463万リットル。輸出平均価格は2.3%上昇して1リットル当たり2.73ユーロとなった。出荷量が大幅に減る一方、バルクワインの価格が上昇したことが主な要因だ。

減少の中心となったのは、ポルトガルの輸出収入の大半を占める容器入りワインだった。スパークリングワインとバッグ・イン・ボックスを含むこの分類の輸出額は、上半期に5.8%減の4億50万ユーロ。輸出量は4.7%減の1億3,076万リットルとなり、平均価格も1.2%下がって1リットル当たり3.06ユーロだった。

この分類はポルトガルのワイン輸出総額の約95%を占めており、その動向が業界全体の結果をほぼ左右した。中でも、2リットル未満の容器で出荷されたワインは引き続き最大のカテゴリーである一方、減少幅も最も大きかった。同カテゴリーの輸出額は6.8%減の3億7,063万ユーロ、輸出量は5.9%減の1億1,303万リットル。平均価格は0.9%下落し、1リットル当たり3.28ユーロとなった。このカテゴリーだけでポルトガルのワイン輸出総額の約88%を占めるため、その落ち込みは国全体の輸出実績に広く影響した。

報告書によると、小容量の容器入りワインの販売減を、他の容器入りワインの好調で補うことはできなかった。容量2〜10リットルのバッグ・イン・ボックスは逆の動きを示した。輸出額は7.6%増の2,501万ユーロ、輸出量は3.7%増の1,696万リットルとなり、平均価格も3.7%上昇して1リットル当たり1.47ユーロだった。

スパークリングワインも伸びたが、平均価格は低下した。同カテゴリーの輸出額は7.4%増の487万ユーロ、輸出量は10.8%増の77万リットル。平均価格は3.1%下落して1リットル当たり6.30ユーロとなったが、データ対象カテゴリーの中では依然として最も高かった。

それでも、スパークリングワインとバッグ・イン・ボックスの輸出額は合計2,988万ユーロで、容器入りワインの輸出額の8%未満にとどまった。金額の絶対規模が小さく、瓶など2リットル未満の容器で販売されるワインの減少を埋め合わせるには至らなかった。

バルクワインは、割合で見るとさらに大幅に減少した。輸出額は12.1%減の2,124万ユーロ、輸出量は23.9%減の2,386万リットルだった。平均価格は15.5%上昇して1リットル当たり0.89ユーロとなり、輸出額の落ち込みを和らげたものの、減少を食い止めるには至らなかった。バルクワインは輸出総額の約5%を占める一方、出荷量では15.4%を占めており、単位当たりの収益貢献が低いことが浮き彫りになった。

上半期の実績は、容器入りワイン輸出が全体として減少傾向にあることも示した。報告書が引用する時系列データによると、2026年の輸出額と輸出量はいずれも、2021年から2026年までの各年上半期で最低となった。容器入りワインの輸出額は2024年上半期の4億3,530万ユーロから、2025年には4億2,530万ユーロ、2026年には4億50万ユーロへと減少。輸出量も同様に、2024年の1億3,930万リットルから、2025年に1億3,720万リットル、2026年に1億3,080万リットルへと落ち込んだ。

輸出先別では、上位10市場が合計2億8,450万ユーロを占め、ポルトガルのワイン輸出総額の約67.5%に相当した。金額ベースで最大の市場は引き続きフランスで、購入額は4,610万ユーロだったが、

前年同期比では9.3%減少した。フランス向けの出荷量も7.7%減の1,480万リットルとなり、2025年上半期に比べて1リットル当たりの平均収益が低下したことを示唆している。

金額ベースで2位の米国向けは4,070万ユーロで、11.9%減少した。輸出量も5.2%減の1,100万リットルとなり、米国はこの期間のポルトガルの輸出減少に大きく寄与した市場の一つとなった。報告された減少率に基づくと、フランスと米国の購入額は合計で約1,000万ユーロ減少した。

ブラジルは米国に迫る輸出先となった。ブラジル向けのポルトガルワイン輸出額は1.6%増の3,940万ユーロ、輸出量は3.6%増の1,290万リットルだった。金額ベースの順位では、ブラジルは米国をわずか130万ユーロ下回った。上位10市場のうち、輸出額が増加したもう一つの市場はアンゴラだった。アンゴラ向けの販売額は6.6%増の2,510万ユーロ、輸出量は12.6%増の2,050万リットルとなり、上半期におけるポルトガル最大のワイン輸出先を、量ベースでアンゴラが占めた。

市場ごとの動向は、出荷量の増加が必ずしも輸出額の増加につながらないことを示している。英国向けは輸出量が1.1%増の950万リットルとなったものの、購入額は0.9%減の3,150万ユーロだった。オランダも同様で、輸出量が2.6%増の710万リットルとなる一方、輸出額は1.4%減の2,300万ユーロに落ち込んだ。両国では、1リットル当たりの平均価格の低下が増量分を相殺したとみられる。

その他の主要市場でも、金額と数量の両方が減少した。カナダ向けの輸出額は8.2%減の2,210万ユーロ、輸出量は6.2%減の590万リットル。ドイツ向けは11.5%減の2,040万ユーロで、輸出量は19.7%減の850万リットルだった。ドイツでは輸出額より数量の減少幅が大きく、1リットル当たりの平均価格は上昇したとみられるが、輸出収入全体の減少を防ぐには至らなかった。ポーランド向けは輸出額が6.7%減の1,900万ユーロ、輸出量が3.2%減の830万リットル。金額ベースの上位10市場を締めくくったベルギー向けは1,720万ユーロで、6.5%減少した。

報告書はまた、出荷量で見たポルトガルの主要輸出先のうち、スペインが最も大幅に減少した市場だったと指摘した。スペイン向け輸出量は2026年上半期に65.1%減の520万リットルとなり、前年同期の約1,490万リットルから大きく落ち込んだ。スペインは金額ベースの上位10市場には入らなかったが、数量の減少幅は大きく、この期間におけるポルトガルの輸出先構成の中でも際立った変化の一つとなった。

OIVEによると、これらの数値はTrade Data Monitorを通じて集計したポルトガルの通関データに基づき、2026年1〜6月と2025年の同じ期間を比較したものだ。主力の容器入りワインの販売低迷と、主要輸出市場の大半で需要が弱まったことで、業界が圧力を受けていることがデータからうかがえる。一方、ブラジルやアンゴラなど一部の市場では成長が続いた。